



国際交流員カロリンのコラム

メルヘンの時間 Märchenstunde (メルヘンシュトゥンデ)



皆さん、グリムの館に行ったことがありますか？ドイツやグリム兄弟、グリム童話についての紹介もありますが、私が一番気に入っているのは図書コーナーにある本です。



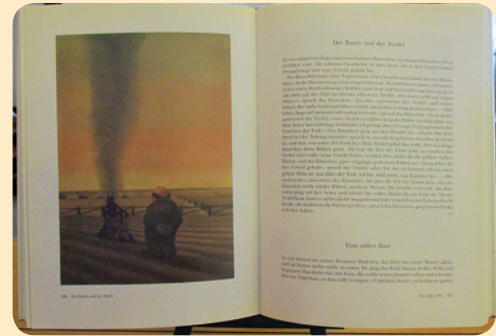
ドイツ語で、特別な言葉があります。

「Märchenstunde (メルヘンシュトゥンデ、メルヘンの時間)」という「童話の読み聞かせ」という意味です。大昔、人々は村の広場に集まって年長者から色々な物語を聞きました。その伝統が、少しずつ形を変えて現在まで生き続け、2016年にはドイツの無形文化遺産になりました。

ドイツ人は、グリム童話を聞いて育ちます。子どもの頃、私もよくお姉ちゃんと一緒にレコード・プレーヤーの前に座って、グリム童話を聞きました。もちろん、シンデレラや白雪姫も聞きましたが、他にも面白い童話があります。いつも聞いていた「お百姓さんと悪魔」という童話を紹介しますね。

むかしむかし、とても頭の良いお百姓さんがいました。ある日、畑に行くと、煙が出ている炭の山が遠くに見えました。近づいてみると、その山の上に悪魔が座っていたので「その山は何だい？宝物かい？」と聞きました。すると、悪魔が「そうだ。今までに見たこともないような宝物だぞ」と答えまし

た。それを聞いたお百姓さんが「ここは私の畑だから、その宝物は私のものだろう！」と言うと、悪魔が「取引しないか？この宝物の全部がお前のものになる代わりに、2年間、この畑で採れたものの半分の寄こせ」と言ってきました。お百姓さんは「あなたは地面の上にできたものを手に入れて、私は地面の下にあるものを手に入れるなら、まあいいだろう」と取引を受け入れました。



悪魔は満足そうでしたが、実は、このお百姓さんは、畑にカブをまいていたのです。

いよいよ収穫の時期になり、悪魔は自分の取り分を楽しみに畑にやってきました。でも、畑にはまずい黄色の葉っぱしかありません。悪魔は、しょうがないとあきらめたところに、ニコニコしながら美味しいカブを抜いているお百姓さんを見つけたので、かんかんに怒って「なんてずるいやつだ！次は、おれが地面の下のものをもろうからな！」と真っ赤な顔で言いました。すると、お百姓さんは「ああ、いいよ」と聞き入れました。

お百姓さんは、今度は小麦をまきました。そして、収穫の時期がきて、根元からすっかり刈り取ってしまいました。こうして畑には切り株しか残っていませんでした。悪魔は怒り狂って地獄へと帰って行ってしまいました。

お百姓さんは、宝物を手に入れて「これはこれは、うまうまいったなあ」と笑顔で言いました。知恵の働くお百姓さんが、悪魔をうまくだましたお話でした。

国際交流員イベント ドイツ風クリスマスパーティー

市国際交流協会ではクリスマスパーティーを開催します。クリスマス音楽の演奏やプレゼント抽選会を行う他、ドイツの料理とビールも用意する予定です！天使のようなクリストキンドにも会えますよ！

■日時	12月8日(日)	■参加費 (当日集金)	■申込期間
	午後4時～6時	国際交流協会会員 2,000円	11月11日(月)～22日(金)
■場所	グリムの館	一般 3,000円	■申し込み・問い合わせ先
■定員	60名	※小学生は半額、未就学児は無料です。	市民協働推進課 ☎(32)8887

※ママパパ English、Fun Fan English については34ページを、アドベンツカレンダー作りについては23ページをチェック！



TAKE FREE

広報しもつけを設置いただけるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課☎0285 (32) 8886 情報広報グループまでご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

